

様式第5号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1	教育実習等の内容及び成績評価等
①	教育実習等の時期 4年次5月～6月 または 4年次5月～10月
②	教育実習等の実習期間・総時間数 中学校又は高等学校で2週間（80時間）又は3週間（120時間）
③	実習校の確保の方法 大学が所在する近隣の中学校、高等学校を中心に教育実習受け入れを依頼する。
④	実習内容 中学校又は高等学校で2単位、あるいは4単位相当の実習を行う。実習は、観察・参加・実習を主たるものとする。まず、講話や観察により、実習校の学校経営方針、取組、校則、校内組織、生徒の実態について把握する。指導教員や他の教員の授業を参観し、記録し、教材研究や学習指導案の作成につなげる。指導教員や他の教員が担任する学級に関わって補助を行い、学級経営、生徒会活動の補助的な役割を担う。観察や補助的な参加を経た後、指導教員等の指導の下に、大学で学んだ学習指導に関する知識・理論・技術等を用いながら学習指導案を作成し、授業実践を行う。授業実践の後には指導教員や他の教員からの指導・助言を受け、学習指導案、授業における技術や生徒との関わりについて振り返りを行う。また、事務作業や校外との連携など、生徒の目から見えづらいところで行う教員の仕事について理解する。
⑤	実習生に対する指導の方法 教職委員会のもと、大学の指導担当教員が決定され、教育実習先を訪問し、実習校の担当教員と協議しながら指導を行う。
⑥	実習の成績評価（評価の基準及び方法） ※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。 実習校に教育実習成績報告書への記録と大学への送付を依頼する。実習生は、「教育実習の記録」に観察・参加・実習などの記録を作成して、実習指導教員の指導を受け、大学の実習担当教員に提出する。 ※ 教育実習成績報告書を添付。
2	事前及び事後の指導の内容等
①	時期及び時間数 実習にかかる事前及び事後の指導を1単位15時間行う。事前の指導は教育実習開始前に行い、事後の指導は教育実習終了後に行う。

② 内容（具体的な指導項目）

事前指導では、改めて教職に対する意識を問い、実習の目的、実習の概要、実習校への依頼、実習生の心得などについて指導を行う。実習校でのオリエンテーションを受ける時期を目安として、あらかじめ模擬授業を行う。

事後指導では、実習中の取組についての各自の振り返りを元に、実習生相互の振り返りを行う。教育実習を通して得られた知識と技能をふりかえり、さらなる課題について確認を行う。

③ 教育実習等におけるハラスメントの防止等に関する学生への指導（相談窓口の周知を含む）及び学内の相談体制等について

①教育実習におけるハラスメントについては、実習生が該当する事態と認識した場合、大学の実習担当教員に対して報告、相談する体制を取っている。報告のあった場合、実習校の管理職と連絡を取り、その後の対応を進めることとしている。

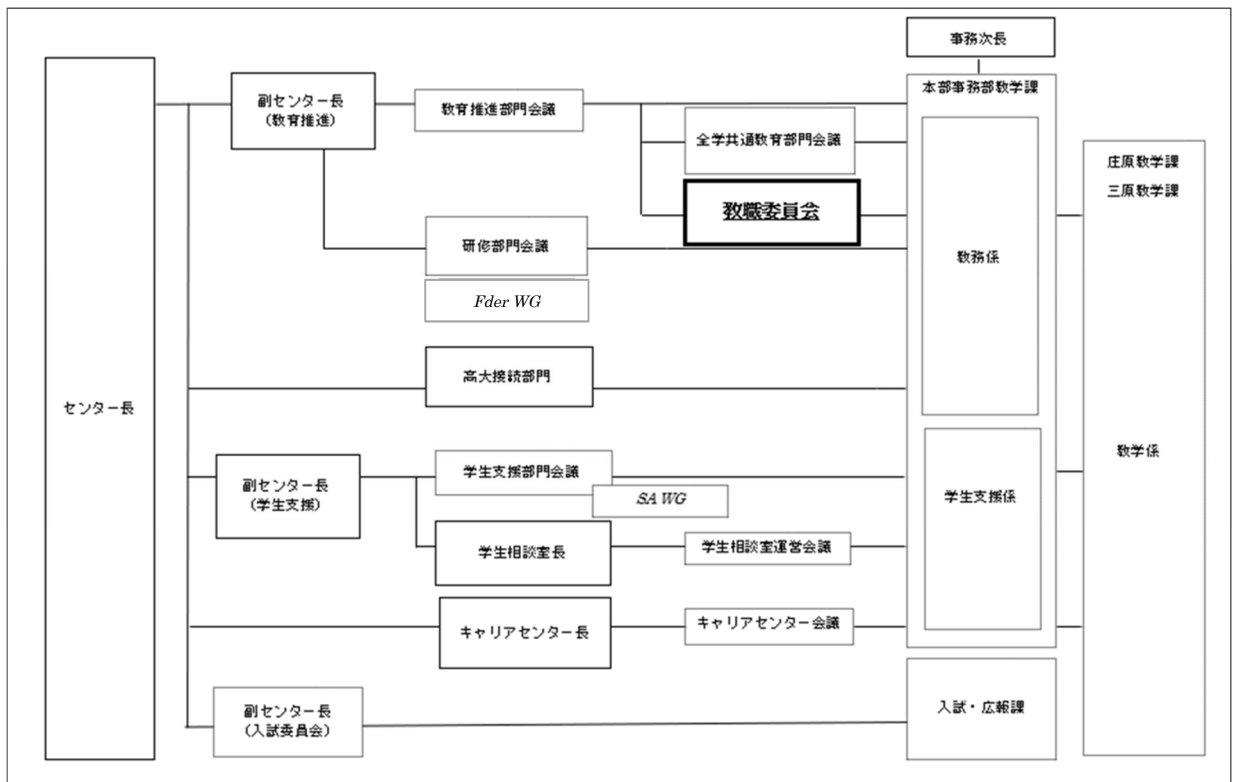
②教育実習指導において、当該ケースの対応を伝えるとともに、緊急連絡先として、担当教員の連絡先を伝えている。

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称
大学教育実践センター教育推進部門教職委員会
- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）
委員 15 名（委員長 1 名含む）、事務担当職員 3 名
- ・ 委員会等の運営方法
委員長により招集される。

【委員会の組織図】



教育実習生		所	県立広島大学	学部	学籍	
氏名		属		学科	番号	

実習校所在地 (〒) TEL ()

実習校名

学校長名 印

実習教科	実習期間	欠席日数	遅刻・早退	担当授業数
	自 月 日	病 気 日	遅 刻 回	教 科
	至 月 日	事 故 日	早 退 回	特 別 活 動
		そ の 他 日		そ の 他
				時 間
				時 間
				時 間

下記の評価項目について、該当するものに○をつけて下さい。(a:優れている b:普通 c:不十分である)

項 目	主 な 着 眼 点	評 価
1. 教職に対する自覚	教職に対する自分の考えをつねに問いなおし、実習を通して教職に対する自覚が深められたか。	a b c
2. 生徒ひとりひとりの価値の尊重	生徒ひとりひとりの願いを感じとり、その可能性の実現に向けて、つねに努力していったか。	a b c
3. 他者の理解と自己の変革	指導教諭をはじめ教職員や仲間の実習生に対してつねに心をひらき、理解しようと試み、そこで学んで行く事柄を自分の実習に生かそうとしたか。	a b c
4. 教材研究	教材内容について学問的な研究を深め、それを基礎にして教材を選択し、創意的に授業計画をたてようとしたか。	a b c
5. 授業展開	生徒の表情や発言を的確に理解しながら、適切な発問・説明・板書などによって意欲的な学習を展開させようとしたか。	a b c
6. 生徒の集団活動の把握と指導	教科外の生徒や学級の諸活動に積極的に参加し、自治的集団活動の教育的意義を理解しようとしたか。	a b c
7. 事務・実務能力	学級経営上の事務処理などが的確にできたか。実習記録や書類などを期限内に作成し提出したか。	a b c

総合評価 (○をつけて下さい)

- A+ : 実習生として特に優れている。
- A : 実習生として優れている。
- B : 実習生として十分に努力した。
- C : いま少し積極的な実習への取り組みが望まれる。
- D : 実習の効果が全く見られない。

総合所見

実習指導 (評価記載) 教諭名

印

教育実習生の受入承諾書

令和7年1月27日

県立広島大学
学長 森永 力 様広島県教育委員会
教育長 篠田 智志

県立広島大学地域創生学部情報学科に係る教育実習の受入について、次のとおり承諾します。

記

1 教育実習の受入に係る学部・学科・入学定員及び免許状の種類

学部	学科	入学定員	免許状
地域創生学部	情報学科	40名	中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（情報）

2 教育実習の受入れ時期

令和11年4月から

3 受入対象学校数

広島県立中学校 3校
広島県立高等学校 79校

教育実習生の受入承諾書

令和 7 年 1 月 2 8 日

県立広島大学
学長 森 永 力 様

広島市教育長 松井 勝憲

県立広島大学地域創生学部情報学科に係る教育実習の受入について、次のとおり承諾します。

記

1 教育実習の受入に係る学部・学科・入学定員及び免許状の種類

学部	学科	入学定員	免許状
地域創生学部	情報学科	40 名	中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（情報）

2 教育実習の受入れ時期

令和 11 年 4 月から

3 受入対象学校数

広島市立中学校 6 3 校
広島市立高等学校 7 校
広島市立中等教育学校 1 校